

「私のハム生活」

JJ1SXA 池

私の郷里は佐渡ヶ島、今は割と簡単に行けますが、私の子供の頃は、佐渡－新潟間は、船で約**5**時間、1日せいぜい2便(冬になれば1便、しかも欠航が多かった)、早い話が離島・孤島の田舎も田舎、本土とは全くの別世界でした。

また、生まれた時期が悪く？少年期は戦争真っ只中を経て、戦後の混乱期、高校生の頃になってようやく落ち着きだした世相でしょうか、と言っても、なにしろ田舎の事、都会育ちの人達の常識、知識とはかけ離れた環境でした。

そんなわけで、ハムの存在を知ったのは、昭和30年頃でしたが、免許の取り方もわからず、いつしか忘れた存在でした。

昭和**51**年に、勤務先の運転手の数人がCB無線に興味を持ち、始めようとした矢先、JA6のコールを持つ一人が、CB無線はやるな、やるならアマチュア無線だと、強引に講習会受講等の手続きを世話し、**5～6**人に免許をとらせたのですが、これを知って、私も、是非やりたいと思いました。

この時、池さんは歳も歳だから、講習会を受けなければ絶対駄目ですよと言われショックでした。(当時**40**歳、自分ではまだまだ若いつもりだったが、考えてみれば、昔**5**球スーパーが出始めた頃のラジオを触った程度、トランジスタ全盛でエミッターが真空管の何になるのかなど全然知らない素人、当たり前)

当時は、仕事が忙しく、とても講習会に参加など、とんでもない事でした、何しろ当時の講習会は時間が長かった。

いろいろ調べたら、国試を受ける方法がある事もわかりましたし、級も色々ある事がわかり、歳だからと馬鹿にされたのだから、少なくとも電信級も受けてやれと、知らないことは強く、怖い物知らずで、昭和**51**年**10**月期の電話級・電信級の受験となったのです。

この時、一緒に勉強する相棒がいた方が良からう、将来同じ趣味があった方が良いだろうと、SXBに、一緒に受験するよう薦め、何も

知らない彼女を引きずり込みましたが、受験申し込みの手続きは、締切り**1**日前、それから問題集等を入手して勉強を始めましたが、最初は二人で一冊、暢気なものでした。

なにしろ、工学の基礎知識は無いし、先生は居ないし、講習会の受講を蹴ったので、相談の相手も無く、ただ問題集と、CWのテープに頼るのみでしたが、何とか、**1**回で電話級・電信級に合格すると、もう後はすぐに開局申請、リグもアンテナも無いのにいい加減なものでした。

そんなわけで、コールサインをもらったのは、昭和**52**年**2**月でした、然し、ワッチを始めたのは、**11**月になってから、初めてのオンエアーは、**11**月**23**日、記念すべき日ですね。

実は、リグもアンテナも無いのは当たり前、前記のとおり、全く知らないことは強くて怖いものなし、1アマの受験のため、一生懸命勉強していたのです、一応**10**月に実技の試験が終ったのでようやく腰が上がったと言うわけです。

(2アマを受けず、いきなり1アマにしたのは、どうせ学科は丸暗記だから、少しでも問題数が少ない方が良からう、英語がしゃべれないのだから和文を覚えた方が良いと、随分いい加減に勝手に決めての事ですが、意外と正解だったようです)

この時、試験場で、まわりから聞こえている話は、何年やっているとか、DXをこれだけやったとか、何回目の受験だとかで、あなたはどうか？と聞かれた時は、これは、とんでもない場違いの所に来てしまったと、本当にビビりました、なにしろまだリグも無く、ワッチもした事が無いのですから。

でも、一応試験が終ったということで、リグ・アンテナを揃え、と言っても、アンテナはモービルホイップを車に付けたただけでした、家の外に停めた車から同軸ケーブルを室内に引き込み、固定局の完成、リグは、当時トリオの最新鋭機TS600、モービルも固定もこれ**1**台、随分永く活躍したリグで、未だに愛着を感じ、手放す事はできません。

QSOのやり方も、テープで独習、アンチョコも作り、何とか取れそう

なスピードの局を見つけ、度胸を決めてコールしましたが、ワッチしている時は、楽々コピーできるスピードと思っていたのに、いざとなったらあたふたしましたが、何とかファイナルにこぎつけ、初QSO成立です、それにしても冷や汗の出る緊張した時間だったのを今でも思い出します。

そしてそのまま、CWの虜となり、毎日毎晩QSOするのが日課、休みの朝など遅く迄寝ていられず、早朝からCQの連発、そんな時間に50MHzCWの局などめったに居るはずも無いのに、わかっちゃいるけど何とやらです。

何ヶ月か経って、HFのリグも購入、屋根上のテレビアンテナのマスドから、7・21MHzの逆Vを張り、21MHzを聞いたら、折りしもコンディションはサイクル20の良い時期、DXの局が沢山聞こえ、結構HFでDXを楽しむことになりました。(21MHz・CWで100カントリーと少しやったら止まってしまった。)

また、7MHzを聞けば、和文の局が目白押し、縦振れやバグキーで癖のある符号、その上ハイスピードで、半分しかとれないような局とも、勘と度胸だけで和文を勉強させてもらいました、やはり和文は日本語、通じるものです。

今でもそうですが、CQを出すのはSSBでは、どのバンドでも苦手ですが、CWなら、どのバンドでも平気でCQを出す事ができるようになりました。

でも、いつかの平日の昼間、14MHzでCQ・DXを出した時、Wの超OT局(私の年齢を言ったら、俺はそれより長く無線をやっていると言われた)から応答があり、こちらはラバースタンプのQSOで終るつもりがラグチューになり、信号は縦振れの一寸癖のある符号がQSBを伴っており、符号のコピーだけでも苦労しているのに、内容が技術的な話から、家族のことや日常生活のことにまで及び、私の英語力では、何とか質問がわかっても答えに窮してあせっているのに、最後には、SSBにQSYしてもっと長く話そうと言われたが、急用が出来たので申し訳ない、次回にしてくれと、ほうほうのていで、ようやくファイ

ナルを送りましたが、この**1**時間のQSOは、冷や汗どころか、心臓が悪くなる感じでした。

さすがに、それからしばらくは、14MHzでCQ・DXは遠慮しました、もっと英語力をつけなければと、ほとんど反省です、でも心に残るQSOでした。

後は240です、昭和**56**年**1**月の、**50.240**MHzの周波数を設定した時に参加して以来、**20**年余240から離れられずにやっています、最初の頃はモービル機やモービルアンテナも良い物が無く、**15Km**の距離でQSOできれば良い所、それを何とか**30Km**、次は**50Km**を楽々出来るようにしようと皆で盛り上がり、モービルのノイズ対策、リグの感度アップ、アンテナの究極の調整と、半分キチガイ沙汰でした。

その頃は、旅行に出かければ、常にリグのスイッチは入れっ放し、勿論周波数は240固定です、地方へ行けば聞こえるのはノイズばかり、それでも飽きもせず聞いていたものです。

まだ関越道路が途中までしか開通していなかった昭和**57**年夏、佐渡へ行った時、三国トンネルを抜けて**0**エリア新潟県に入っても、都内とQSOができて喜んだり、佐渡ヶ島の山の上から、都内のモービルともQSOできて、モービルの遠距離通信の可能性を実感し、その後は、遠い所へ行けば行く程、何とかここから繋がらないものかと一生懸命電波を出しました。

その後、東北方面へ旅行した時も、秋田・男鹿半島の海岸線を走っている時、なにやら入っているなど聞き身を立っていたら、突然東京の信号がメリッ5、走っているのに直ぐ聞こえなくなり、「スピードを落とせ、止まれ、バックしろ」などと、運転していたSXBと半分喧嘩でした。

でもなんとかQSOでき、寒風山に登り、改めて東京、大宮の固定局とQSO、モービル局を探してもらったが、平日の事でモービル局は見つからず、固定局のみになってしまいました。

Eスポかと、ダイヤルをあちこち回して見ましたが、開けてはいなかったようでした。

また、その**2**日後だったかに、青森・黒石市の一般道路を走行中、またまた東京の信号を聞きつけコール、すぐにメリットが悪くなり、急いでQTHをCWで打ったのですが、後で聞いた話では、東京各局は「クロイシ」とは、何処だ何処だと大騒ぎしてたようです、やはりCWは流石、SSBで無理でも何とかわかってもらえるものです。

モバイルからのCWですが、昭和**56**～**57**年当時、通勤の時間帯の**7**時半頃は青梅街道・練馬区、杉並区を走っていたのですが、バンドの下の方を聞くと、毎朝**KL7**の局がCWでCQを出しており、走行中にこれとやりたくてキーを工夫しました。

以前から積んでいたのは、普通の縦振れや豆電鍵、次はエレキーを固定して置いていましたが、置く場所を、ああでも無い、こうでも無いと試行錯誤、究極の置き場所は股の間に挟むような形に縦に置き、左右どちらの手でも打てるようにしましたが、これが運転にも支障無く一番の方法でした。

今使っているキーは左打ち・右打ちがスイッチで切り替えられますので、センターコンソールに逆向きに置いて、運転中は左手で、助手席では右手で打つようにしています、逆向きの方が、キー本体の上に手が置けるので安定しますし、キーの位置が後ろに下がるのでチェンジレバーに邪魔になりません。

最初の頃は、練習のため自分からCQを出し、カード交換のQSOを大分やりましたが、一番苦労したのはメモをとることでした、勿論、交信中は相手のコールやネーム、QTH等は頭にいれてやりますが、カード交換に必要なスタート時間、コールサイン、送った信号強度だけは最低限メモしておかなければいけません、最初CQを出して受信に移る時は、前方の信号に合わせられますが、1交信終わってすぐ次の局に呼ばれる時です、これも考えて、できるだけ信号に合わせてファイナルを送り次に備えるのですが、うまくいかない時もありました、いよいよとなれば、半固定しますが、モバイルは動いているのが当たり前ですから、できるだけ走行中に全ての処理をすることを心がけ、何とかうまくできるようになりました。

走りながらですと、ゆっくり走っている時は、ゆっくりのスピードのCWですが、高速道路で高速走行になると、CWもハイスピードで無いとリズムが悪くなる感じです、本当は高速走行のときは、ゆっくりのCWの方が安全運転のためには良いのでしょうか、車の速度が上がると、CWのスピードも上げたくなり困ったものです。

無線を始めたばかりの頃は、**50MHz**CWで、AJD、WAJA、JCC、JCG、**VU1000** は勿論のこと、WACA, WAGAまでもと一生懸命になってやりました、JCCは**400**超、JCGは**200**超でこちらも殆んど止まったままですが、他は何とかクリアーしています、特に **50MHz**CW・**VU1000** は、結構早いうち(順位は **10** 番台)に出来たようです。

50MHzWACもCWでと思っていますが、前のサイクルでは、ヨーロッパ、アフリカをとりこぼし、今サイクルに何とかならないものかと、開けることを心待ちしている状態です。

一時期、仕事が忙しくて無線どころで無かったことや、**PC**に夢中に取り組んだり、240の方のアクティビティは下がり、他のところもコンテストを除けば殆んどやっていないような状態が続きましたが、これからは、240はもとより、**50MHz**は勿論のこと、HFの方も、**1.9**、**7**、**10**、**14**、**21**MHあたりで、DXや和文CWを一生懸命頑張りたいと思っています、聞こえましたらお付き合いよろしくお願ひ致します。

第 50 号(平成 13 年 7 月発行)掲載